

## ふれあい祭報告②

## 展示の説明やクイズでテント内は満員の盛況

李華仙（日本語教室部会）

日本語教室部会は、活動をしっかりアピールするぞという意気込みで、『日本語を学ぶ・教える・交流』をテーマに、習志野市の外国人の背景や私たちの活動内容を詳しくまとめた全 20 枚の資料を作り、テント内に展示しました。そしてその中から答えを探す、大人と子どものクイズを展開しました。

当日は 11 時に開始。呼び込み担当者の積極的な声掛けも功を奏し、気づくとあっという間にテント内は満員状態。受付、パネル説明、クイズの答え合わせ、景品とチラシ渡しと、各担当者それぞれが必死に役割をこなしました。その結果、用意していた 200 個あまりの景品（協会の名前入りボールペン）が 13 時には底をつきました。

「結構難しかった～」と笑う小学生や「習

志野市はたくさんの外国の人がいるんだね」とお父さん。「ボランティアは英語ができないとダメなんでしょ？」との質問。（→そうではないと、きちんと説明しました）子どもたちが国旗の問題を楽しく解いている様子や花マルをもらって喜んでいる姿など、様々な反応がありました。「活動している場所はどこ？」など、日本語教室に興味をもってくださった方も多く見られました。

私たちの側も、「在住外国人の一端を知ってもらえてよかった」「子どもたちの国際理解のきっかけになったらいいな」「この狭いテントの中で大切な種まきをしているのかもしれないなと思った」等の声も聞かれ、心動かされる活動となり、反省点も多々ありますが、大変充実した時間となりました。



テント内で資料を見たり説明を聞きます



声掛けに集まる来訪者